

静岡県って危険なところ・・・???



しっかり、対策しています！



みんなで防災！未来へつなぐ静岡の力

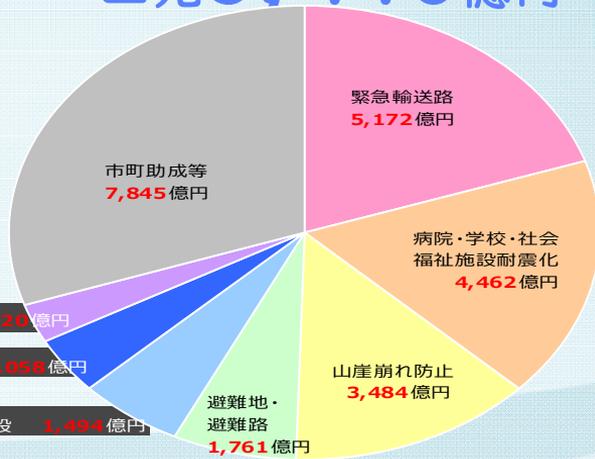
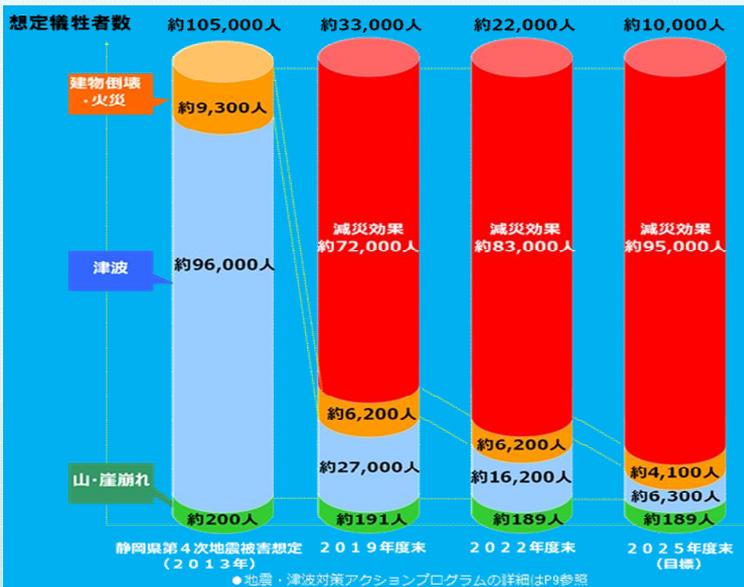
2兆5,996億円

AP2013 の実行によって
想定される犠牲者を
10年間で**約8割減少**
約**83,000人**の
減災効果 (試算)



AP2023 の実行によって
想定される犠牲者を
2025年度末に
約9割減少
被災後の県民生活
の健全化

◆静岡県地震・津波対策アクションプログラム(AP)2013 および2023による想定犠牲者数の推移



木造住宅耐震補強工事への助成
累計25,818戸
全国1位
令和4年度末

震災総合訓練への県民の参加率
10.4%
全国2位
(全国平均1.3%)
令和3年度末

防災拠点となる公共施設の耐震化率
98.7%
全国2位
(全国平均95.6%)
令和3年度

静岡県の防災対策

1 地震・津波から着実に命を守る

- (1) 犠牲者の最小化
 - ・ 防災施設や津波避難施設等の着実な整備促進
 - ・ 県民一人ひとりの避難計画の作成と早期避難の実現
- (2) 減災効果の持続化
 - ・ 自力避難が困難な要支援者の避難体制強化
 - ・ 避難施設の滞在時環境の整備や機能確保
 - ・ 向上させた早期避難意識の持続化

地震・津波対策アクションプログラム2023

2 被災後も、命と健康を守り、生活再建につなげる

- (1) 避難生活の健全化
 - ・ 自主防災組織による避難所運営訓練の推進
 - ・ 男女共同参画の視点からの防災対策の推進
 - ・ 避難所の機能充実
 - ・ 要配慮者への支援体制の整備
- (2) 生活再建への支援推進
 - ・ 飲料水・食料等の備蓄の徹底
 - ・ 被災市町その他機関からの応援受け入れ体制強化
 - ・ 被災者生活再建支援体制の強化



〔静岡モデル防潮堤（吉田町）〕



〔避難所運営訓練の様子〕

3 地域を迅速に復旧し、復興へつなげる

- (1) 地域の復旧や強靭化
 - ・ ライフラインの耐震化の促進や事業所の事業継続の事前準備（BCP等）
- (2) 迅速な復興
 - ・ 復興に向けた市町の事前準備の促進

危険な場所ってどうやって見るの？

ハザードマップ（防災マップ）

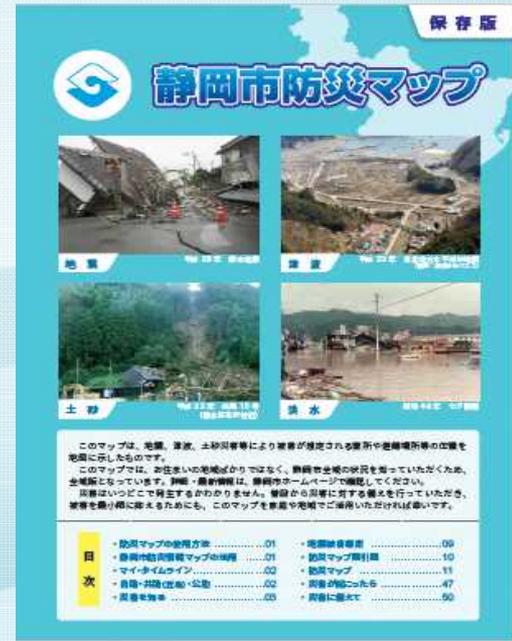
地震、津波、土砂災害などによって

- どこで被害が起きるか
- どこに避難したらいいか

などを地図上に示したもの

※ 絶対に正しい答えではない

(対応の目安とする程度と考える)



洪水ハザードマップをみましょう

洪水・土砂災害ハザードマップ

巴川・長尾川(葵・駿河区) 想定最大規模

洪水・土砂災害ハザードマップ(巴川・長尾川)では、静岡県によって想定された巴川・長尾川における最大規模の浸水想定区域(巴川流域の24時間総雨量740.0mm)を示しています。実際の洪水による浸水が常に想定通りの結果となるわけはありませんが、各自が避難の目安としてお使いください。

凡例

 風水害緊急避難場所

 指定避難所

- 風水害緊急避難場所
災害による危険が切迫した状況において、住民等が緊急に避難する際の避難先です。
- 指定避難所
災害の危険性があり避難した住民等が、災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした施設です。

 要配慮者利用施設

 消防署

浸水に関する情報

家屋倒壊等氾濫想定区域

早期の立退き避難が必要な地域

 河岸侵食[※]

※家屋が倒壊するような河川侵食の発生するおそれがある区域。

最大浸水深(想定最大)

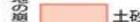
-  3.0m以上5.0m未満 ※1
-  1.0m以上3.0m未満
-  0.5m以上1.0m未満
-  0.3m以上0.5m未満 ※2
-  0.3m未満

※1 最上階も浸水するおそれがあることから、**早期の立退き避難が必要**。
 ※2 床上浸水または床下浸水が想定されることから、浸水時の状況を踏まえ、自らの判断で自宅の2階以上に避難するなど屋内安全確保でも良い。

-  河川等
-  アンダーパス・地下街等
-  基準水位観測所
-  遊水池

土砂災害に関する情報

土砂災害警戒区域等

-  土砂災害警戒区域
-  土砂災害特別警戒区域
-  土砂災害警戒区域
-  土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の準備が行われます。

土石流



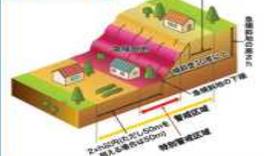
土砂災害危険箇所

-  急傾斜地崩壊危険箇所等
-  地すべり危険箇所
-  土石流危険区域
-  土石流危険溪流等
-  主流路

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物に損傷が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制や、建築物の構造規制等が行われます。

急傾斜地の崩壊

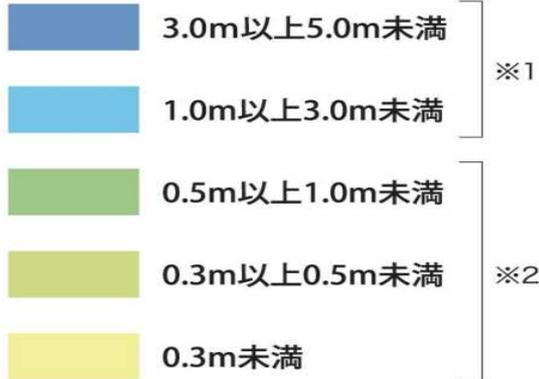


まずは
凡例(はんれい)
に注目!

マークの意味や
色の意味がわかる

洪水ハザードマップを見てみよう

最大浸水深(想定最大)



 風水害緊急避難場所

 指定避難所

 要配慮者利用施設



土砂災害に関する情報

土砂災害警戒区域等

急傾斜地の崩壊		土砂災害警戒区域		急傾斜地崩壊危険箇所等
		土砂災害特別警戒区域		
土石流		土砂災害警戒区域		土石流危険区域
		土砂災害特別警戒区域		土石流危険溪流等
				主流路

洪水ハザードマップを見てみよう

最大浸水深(想定最大)



※1 最上階も浸水するおそれがあることから、**早期の立退き避難が必要**。

※2 床上浸水または床下浸水が想定されることから、浸水時の状況を踏まえ、自らの判断で**自宅の2階以上に避難するなど屋内安全確保でも良い**。

「避難」とは「災難を避けること」

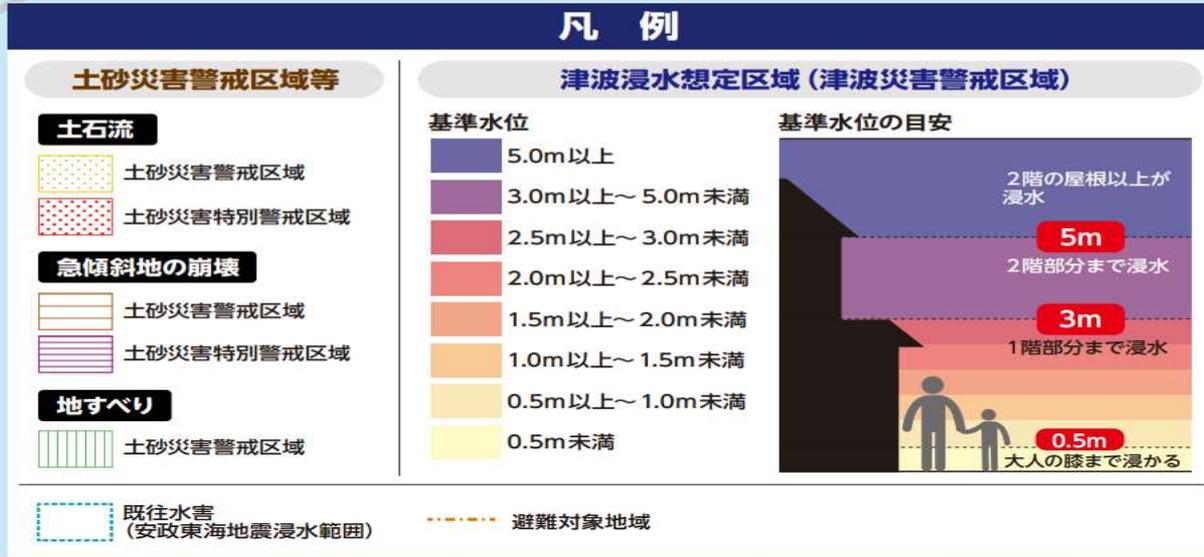
安全が確認できれば自宅の2Fへ避難する、でもよ



津波ハザードマップを見てみよう



まずは
凡例（はんれい）
に注目！



マークの意味や
色の意味がわかる

津波ハザードマップを見てみよう

津波のリスクのある場所では、高い建物を「津波避難ビル」に使わせてもらったり、「津波避難タワー」が建てられている。

基準水位

5.0m以上
3.0m以上～5.0m未満
2.5m以上～3.0m未満
2.0m以上～2.5m未満
1.5m以上～2.0m未満
1.0m以上～1.5m未満
0.5m以上～1.0m未満
0.5m未満

 津波避難ビル

 津波緊急避難場所

